

# いってきました。 みち 「道サポ」体験見学学習会。

主催:国土交通省大分河川国道事務所、共催:大分県道路メンテナンス会議、大分合同新聞社

## 第1部 道路橋の維持管理の取り組みについて。

最初に九州大学の日野伸一副学長が「九州における道路橋の維持管理の取り組み」と題して講演しました。



九州大学副学長・同大学工学研究院 社会基盤部門  
日野 伸一 教授



日本では、橋やトンネルなど構造物が多くありますが、造ったら未来永劫壊れないというわけではありません。中でも橋は最も損傷しやすい構造物で、その一番の原因が路面のひび割れ。そのまま放置していくと舗装の下が砂利化して、舗装下のコンクリートの鉄筋がさびて穴が開いたり、倒壊する恐れがあります。日本には約70万の橋が架かっていますが、この多くが1965～

85年に造られており、建造後50年以上経過した橋が2012年時点で約16%あります。この割合は今後急速に拡大し、22年には約40%、32年には約65%と過半数が50年を超えると予想されていて、どんどん“高齢化”が進みます。

日本の橋は大半が自治体の管理で、専門人材不足からメンテナンスが行き届いていないのが現状です。財政面の制約もあり、古くなればすぐ造り代えるわけにいかず、今ある橋ができるだけ長く使うように早め早めの予防保全が必要です。同時に、人口減少社会の日本では、保全活動を担う人材として市民一人一人の協力が欠かせません。社会インフラは行政のものではなく市民のものであり、維持保全する義務があります。路面のひび割れや穴ぼこを見つけたら連絡をするように心掛けましょう。

日野副学長の講演に統じて、国土交通省大分河川国道事務所の濱上勲副所長から国土交通省の橋梁メンテナンスの取り組み状況についての説明がありました。

5年に1度の橋梁定期点検が義務化され、健全性の診断、結果の記録、メンテナンスサイクルの大切さを話しました。



道路メンテナンスの大切さを学ぶ「道サポ体験見学学習会」が10月26日、大分市の国道10号府内大橋などで開催され、市民約60人が参加しました。参加者は講演や保守点検体験を通じて、道路や橋を守るために一人一人ができる役割について学びました。



## 第2部 府内大橋に移動して、実際に点検方法を学ぶ。



講演後は、府内大橋に移動して体験会。府内大橋は上り線が1960年建造の“54歳”、下り線は80年建造で“34歳”です。

参加者は点検に使う器具や設備の説明を受けた後、高所作業車に乗って点検。実際に点検ハンマーでたたいたりしました。内部が浮いている箇所は明らかに音が違つて分かるそうです。

目視のチェックポイントなども教えてもらい、「みんなが通る橋だから、みんなで守る!」という意識と行動が大切だと学びました。

そのほかに、照明や標識が壊れたり、車が通った時のきしみ音などの異常音も要チェック!

私たちもできる  
点検チェック!

〈その①〉  
タイヤ  
走行位置に  
凹凸があるか



〈その②〉  
穴や異常な  
へこみがあるか



〈その③〉  
2方向以上の  
ひびわれがあるか



普段通りの橋にこんなところはないですか？ 異常があれば、**道路緊急ダイヤル「#9910」**に電話しましょう！

参加者の声

難しい内容だったけど、道路のことを気にかけてみようと思いました。  
(10歳代・女性)

点検の仕方などを実際に体験できることでより理解が深まりました。  
(20歳代・男性)

道路やトンネル内などの劣化で大変な事故につながると思いますので、これからも定期的な点検をしてほしいと思います。  
(60歳代・女性)

今回の体験見学学習会を通じて、道路のメンテナンスがいかに大切かがわかつもらいました。  
「みんなの橋だから、自分にも関係ある」と考えて、今日からみなさんも出来ることから始めませんか？

インターネットの特設サイトでは体験見学学習会当日の様子を紹介しています！ また「道路検定クイズ」や「みちのこぼれ話」などもっと詳しい情報も見ることができます。ぜひご覧ください。

<http://www2.oita-press.co.jp/michisapo/>

（道サボ事務局）大分合同新聞社 コミュニケーション開発局 イベント事業二部内「道サボ」係 TEL.097-538-9646（平日9:00～17:00）

国土交通省

九州地方整備局  
大分河川国道事務所 道路管理第二課 TEL.097-544-4167

道サボ

検索